

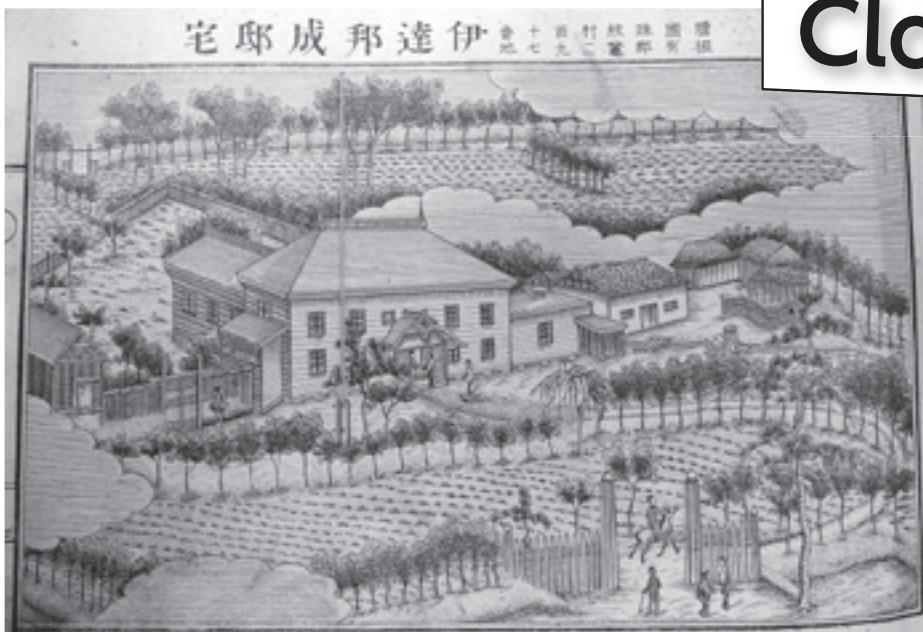
# Close up

# だて

## シリーズ ふるさと探訪①

### 「土塁」——どるい——

伊達市に住む私たちが知っていない、そうでもない歴史や裏話を生涯学習課文化財係がシリーズでお届けします。



明治23年出版の「北海立志図録」に掲載されている当時の開拓記念館の姿。中央の建物は伊達邸本宅で、迎賓館はこの後、明治25年に本宅前に建てられました。  
(北大北方資料室蔵)

### 市

の中心部に1カ所だけ木々が密集している場所があります。そこは伊達市の歴史を物語る上で大切な場所のひとつ、「伊達市開拓記念館」の庭園です。

この開拓記念館庭園は、伊達市の開拓を指揮した伊達邦成の邸宅（旧伊達邸）だった場所で、ほぼ当時のままの姿を留めています。

園内には国の重要文化財「旧三戸部家住宅」や市の有形文化財「迎賓館」が建っていますが、意外に知られていないのが「土塁」の存在です。

土塁とは、敵の侵入を防ぐために、土を堤防状に盛り上げて作ったものです。

明治時代の開拓は、この旧伊達邸を中心に進められました。その一方で、開拓団は「北方の警備」という使命も与えられていたので、警備上の観点から旧伊達邸は土塁

でぐるりと囲まれています。

また、土塁は「城」を囲むように作られることから、当時の人々は、この旧伊達邸を「城」と考えていたようです。

この土塁、実は北海道で最後に築かれたものである可能性があり、道内では、明治元年（1869年）に築かれた厚沢部町にある「館城」の土塁が土塁建築の最後とされていますが、文献を調査したところ、記念館の土塁は明治4年（1872年）前後に築かれたことがわかりました。

残念ながら南側の一部の土塁は破壊されていますが、今年3月に行った調査で、かつての土塁の形跡を発見しました。

140年以上たった今もなお開拓記念館を守っているこの土塁。これからは私たちが守っていききたいですね。



現在の土塁。今もなお健在です。

### 表紙のはなし



6月といえば梅雨。北海道に梅雨は来ないといいますが、やはりほかの月に比べて雨の日は多く感じます。  
今月の表紙は「雨宿りするカエル」。広報担当者が梅雨から連想したものを組み合わせてみました。皆さんは「6月」から何を連想しますか？

### 楽画記

■今月号には数字に関する内容が多く掲載されています。広報紙を作りながら、さまざまな事業で1年のスタートが切られたのだと感じました。この1年1年の繰り返して私たちの住む世界は作られているのか…と大きな事を考えていたらモヤモヤして眠くなります。要するに、私は数字が苦手だと改めて実感した月でした。(や)

■駆け足で桜が咲いて散ってしまいました。すぐに夏がくるかと思いきや6月号を作成している今現在、肌寒さを感じています。寒ければ温かくなればと思い、暑ければもう少し涼しいといいのと思う気持ちは年々増しているような。どんな季節でもかまわず楽しそうなお子どもたちを見習わない。(と)

■伊達市公式Facebookの運用開始から2ヵ月が経ちました。心配していた「いいね!」の数は、思っていたよりも順調な伸びを見せ、現在300件を超えています。今後もさらなるファンの獲得を目指し、伊達市の魅力を発信していきたいと思っておりますので、広報職員から出演依頼のあった際はご協力をお願いします。(た)

発行・編集 伊達市企画財政部企画課  
TEL 0142-23-3331 内線238・239  
FAX 0142-23-4414  
E-mail kounou@city.date.hokkaido.jp  
〒052-0024 北海道伊達市鹿島町20番地1

として保存しましょう